

# 大久保地域 市民センターだより

令和3年6月1日 発行

第109号

大久保地域市民センター  
〒995-0111  
村山市大字大久保甲 875-1  
TEL/FAX 0237(54)2111

## 村山市からのお知らせ 河西地域公立保育施設の統合 について

河西地域の児童数の減少や保育施設の老朽化などに伴い、より良い保育環境を確保するため保育施設の再編を行います。

令和4年4月に、ちぐさと富本の認定こども園と戸沢保育園が統合し、「幼保連携型認定こども園」になります。今年度は、統合に向けて3園の園児の交流会などを予定しています。  
詳しいことは、市子育て支援課保育係にお問い合わせください。

## 消防関係表彰受賞者の紹介

このほど、消防活動に功績のあった団員・職員が表彰されました。まことにおめでとございます。またありがとうございます。

### ●山形県知事表彰

- 〔特別功労章〕
- 〔功労章〕
- 〔功績章〕
- 〔精錬章〕
- 〔永年勤続退団者〕

分団長	高谷 英樹
班長	奥山 陽介
部長	菊地 勝彦
団員	奥山 健
分団長	三原 智
副分団長	芦野 一博



### ●日本消防協会会長表彰

〔勤続章〕

### ●山形県消防協会会長表彰

〔優良章〕

〔永年勤続章〕 勤続25年

勤続20年

勤続15年



### ●消防協会北村山支部長表彰

〔永年勤続退職者〕

〔消防防災協力団体〕

### ●村山市長表彰

〔優良消防団員〕

〔退団者〕

### ●団長表彰

〔無火災分団〕（1年間無火災） 第4分団

〔優良部〕 第4分団第2部

〔優秀団員〕 団員 高谷 寿志

消防司令 片桐 豊登

団員 高谷 太郎

団員 森 隆行

団員 奥山 寛幸

団員 仲嶋 祐鶴憲

部長 仲嶋 義春

班長 小山 潤一

班長 石川 淳

班長 松田 和太

班長 高谷 寿志

団員 保科 宏之

団員 奥山 健

団員 小玉 隆宣

消防司令長 奥山 高

東地区自主防災会

団員 片桐 大

団員 芦野 敏也

団員 芦野 祐助

団員 芦野 寛人

★各種お知らせや行事案内などの情報を掲載しておりますのでご家族全員でご覧ください！

## きれいになった街なかを 子どもみこしが巡回しました

4月11日(日)に行われた「道路一斉清掃」によりきれいになった街なかを、15日(木)、八幡神社例大祭に合わせ小学生による子どもみこしが巡回し神社に奉納されました。



## 最上川洪水対策工事が さっそく始まります

昨年7月の豪雨を踏まえた国による最上川洪水対策(浸水被害の軽減)の一つとして、大久保近くで河道掘削工事が始まります。

場所は、「千座川が最上川と合流する箇所」のすぐ上流の曲線部で、土砂等を掘削し大型ダンプで(越流堤や管理用道路を経由し河北町側の町道等を走行し)搬出する工事です(工期は来年の2月9日まで)。

## 街づくり協議会からの

**お知らせ**

### ●北山桜下刈り作業にご協力を

密接・密集による感染を防止するため、昨年同様に日時を分散して実施します。当番にあたる地区の皆さまにはよろしくご協力をお願いします。

- 6月5日(土) 5時30分～ 楯下釜 水南
- 6月5日(土) 8時30分～ 東
- 6月6日(日) 5時30分～ 門前
- 6月6日(日) 8時30分～ 下原・上原
- 7月18日(日) 5時30分～ 河原前・協力会

### ●毎週「わくわく体操」

毎週水曜日10時から開催中!

- ・四肢を動かす
- ・頭も楽しく使う
- ・ときにはマスク越しに歌を口ずさむ
- ・健康長寿などに関する情報をもちよって学び合う

こんな感じで毎週わくわくしています。お気軽にご参加を!!



### ●夏祭りの中止について

夏の恒例行事「大久保夏祭り」は、残念ながら昨年引き続き今年も中止となります。密接・密集を避けることが困難な事業であることに加え、東京オリンピック日程も考慮するためです。地域の皆さまにはご理解をお願いいたします。

### ●雑がみ回収の予定日

- 本年度の雑がみ回収日程は次の予定です。
- 6月20日(日)
  - 11月21日(日)
  - 3月6日(日)

紙の袋に入れて(ひもやテープで縛らず)午前8時まで燃やせるゴミステーションに出してください。

### ●ゴミステーションのマナー

- きちんと分別  
記名&電話番号もれなく  
守られていますか?  
守られていないゴミは誰かに迷惑が  
再確認しましょう!

次回は8月1日号です。掲載依頼がありましたら市民センターまでどうぞ





葉山暮雪  
(北山頂上付近)



千駄橋夕照  
(千座川橋下流)



平野落雁  
(北山頂上付近)

### 平野落雁

陽鳥自南日  
正班群平野  
使人無鬱紆  
俊逸出風雅

〔大意〕渡り鳥はやはり自ら自覚して南に向かって移動を開始するのである。途中平野に群がって休んでいるが、ばらばらになっても班を正して草の実をついばんでいる。使いの者はうつつしくも鬱紆なく、非常にすぐれた俊逸才能の持ち主が、風雅・風流な気持ちで出発する。そんな光景である。

### 千駄橋夕照

莫道蛟龍在  
往来皆比橋  
荷鑣迎鉞景  
情謂有雲霄

〔大意〕莫はてしなく続く道に蛟龍(詩などを大声で吟ずる事を形容する言葉)と詩を吟ずる者も在りて往来する者皆この千駄橋現在の千座川にかかる橋でひと休みをして比したしく話し合い交流をはかっている。その中には鑣(すき)を荷なう農家の人もおれば鉞(ほこ)を持つている姿も見える。こうした情景は千駄橋の天高い夕日に映えて美しい。

### 葉山暮雪

柳絮旦飄風  
葉山暮曜雪  
道温与謝安  
対語情応切

〔大意〕柳絮(りゅうじょ)柳の綿毛は朝風に飄(ひ)びかい、葉山の残雪が光り曜(かがや)いている宋の僧道温(文宝とも)が中国の会稽山に隠居し、文化人で名将であった謝安(安石とも)と共に向かい合つて語り合つている情景が葉山の暮雪を見ていると中国の会稽山と重なつて切々とその情景が見えて来る。  
※会稽山は浙江省紹興市の南東にある山



大久保歴史研究会メンバーによる石柱設置作業の様子



大窪八景を表した書画を市民センター2階研修室に掲示しています。会議がない時間帯はご覧いただけますのでご一報ください。  
松田文男さんの書  
奥山久夫さんの絵



大窪夜雨  
(くれない苑)

### 大窪夜雨

偃臥倚窓醒  
四隣聴夜雨  
蒼茫望不分  
香滿落花圃

〔大意〕横になつたり窓に倚(より)かかつたりしている内にほろ酔い酒も醒めてきた隣り近所の人皆今降る雨の音を聞いているであろう蒼々として広がるこの大久保を想うとき、明日への希望が湧いてくる先日まで満開に咲いていた花も落ちてしまつたが、その芳しい香がその花園にいまだみち満ちている



宝田晴嵐  
(宝田公民館)

### 宝田晴嵐

宝田無比興  
物象入晴嵐  
縦分接羈客  
白浮豈莫耽

〔大意〕新しく開かれた宝田村にはまだまだ比興(おもしろいこと・もの)はない。まだ物象(物の形)は晴嵐(山のかすみ)に包まれたようなものだがたとえ羈客(旅人)が来ても、そして按(つなぎ)置くも帰してやるもいたずらに耽(お)け過ぎるような事があつてはならない

# 大久保の歴史文化遺産を後世に継承 していく事業に着手しました

このたび、街づくり協議会が事業主体となり、市の全面的な支援を受け、大久保の歴史文化遺産を後世に伝えていく事業に着手しました。

大久保歴史研究会（朝烏秀幸会長・会員20名）が中心となり実施するもので、令和2年度と3年度の2カ年で「主要史跡や景勝地等に標柱（石柱）を設置する事業」並びに、令和3年度に「歴史と文化のまち歩き事業」を予定しています。

このほど、第一期分として「大窪八景」の詩を詠んだと思われる8か所に標柱（石柱）を設置しました。ぜひ足をお運びいただいて、詩を詠んだ情景を思い浮かべてみてください。今後第二期分としてさらに数か所に設置する予定です。

歴史と文化のまち歩き事業については、標柱（石柱）設置終了後に参加者を募集して実施する予定です。

## 大窪八景の解説

八幡神社拜殿にある板に彫られた漢文作品を、小山清蔵氏が書きとめ、それを山形大学の布施昌一教授に解説してもらい、小山清太郎氏が清書したものが八幡神社に保管されています。

詩歌が詠まれたのは安永5年、今から200年以上前。

作者の信念や言おうとしたことが何であるか、使われている文字から読み取れるのではないかと、松田文男氏により、辞書などを頼りに調査のうえで解釈されました。以下にご紹介します。



最上川帰帆  
(北山頂上付近)



薬師寺秋月



宝鏡寺晚鐘

**最上川帰帆**  
有客凌雲志  
懐風映布帆  
智謀天下致  
応需会稽讒

大意「最上川の舟運で大久保の舟渡に降りて来る客の中には凌雲（現実の俗世間を超越する。雲よりも高く登る）高い志をたてている客も居る。特にそういう人は胸元に快風を受け、その姿布帆にまで映えている。天下の智謀はかりごと・企画は、天下（當時は將軍であろうか）にまかせて、また讒（そしり）つげ口・悪口・悪い事は会稽（人を集めてそれぞれの人の功績などの評定にまかせて静かにその評を需まとう）か。」

**薬師寺秋月**  
香刹壁塵親  
良宵朔皓月  
秋風為潔襟  
吟詠處無歌

大意「香しき寺の境内にきらびやかに光る壁塵（玉砂利）を親て良宵（良く晴れた夜空に）白く輝く月（皓月）を塑す（そ）つくる・思い呼べた。そのもとで秋風が吹いて来ても襟をたてなおして一生懸命に吟を詠ずること（歌やむ）やめる」ことなく続いている。

**寶鏡寺晚鐘**  
終日煩器夢  
遂醒蘭若鐘  
能移幽遠響  
人事亦從容

大意「作者は終日（何時も）自分の器（才能）を煩わしく夢（はかないもの）に思うばかりだったが、蘭若寺院・宝鏡寺の鐘の音を耳にするとその煩わしさが醒めてくるようである。その鐘の音も幽遠・静かで奥深い響を移（なびかせ）ている。人事（一般社会の事も從容（ゆったりとおちついて）くつろげる思いがする。」